

**第2次南アルプス市総合計画
後期基本計画・施策マネジメントシート**

作成日：令和5年 7月18日

更新日：令和5年 9月 6日

政策No.	2	政策名	ともに生き支えあいまちの形成	施策主管課	健康増進課
施策No.	16	施策名	健康づくりの推進	施策主管課長名	内藤 秀樹
施策関連課名			国保年金課		

1 施策の目的と指標

(1)対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等	市民	(3)対象指標(対象の大きさを表す指標)	A 人口	単位	人
(2)意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	心身ともに健康に暮らす	(4)成果指標(意図の達成度を表す指標)	① 健康づくりをしている市民の割合	単位	%
			② 特定健診受診率		%
			③ 生活習慣病罹患患者割合		%
			④ 「幸せ実感！南アルプス健康リーグ」を知っている市民の割合		%
成果指標設定の考え方	① 健康づくりの実践率を示す／市民が日頃から健康であることを意識し、そのために自ら健康づくりをすることは、心身ともに健康に暮らすことにつながるため、成果指標とした。				
(成果指標設定の理由)	② 生活習慣病予防への市民の関心度を示す／特定健診を受診することで疾病の予防や早期発見ができ、健診後の適切な指導により健康な生活を送れるようになるため、成果指標とした。				
	③ 生活習慣病罹患の状況を示す／健康に意識して過ごしていれば、生活習慣病が抑制されるため、成果指標とした。				
	④ 健康リーグの認知率を示す／健康リーグが浸透することは、健康づくりを意識していることにつながるため成果指標とした。				
成果指標の測定方法	① 市民アンケート『日常的に健康づくりをしていますか』において、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合				
(どのように実績値を把握するか)	② 特定健診受診者数÷特定健診対象数(国民健康保険に加入している40歳～74歳)×100				
	③ 国民健康保険加入者の生活習慣病罹患患者数÷国民健康保険加入者数×100				
	④ 市民アンケート『幸せ実感！南アルプス健康リーグをご存じですか』において、「知っている」と回答した人の割合				

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	前期基本計画					後期基本計画					
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
対象指標 A 人口	人	見込み値					71,089	70,568	70,041	69,521	68,996	68,430	
		実績値	72,305	72,018	71,880	71,602	71,370	71,249	71,395	71,434			
		見込み値											
		実績値											
成果指標 ① 健康づくりをしている市民の割合	%	目標値	-	-	-	-	-	56.0	57.0	58.0	59.0	60.0	
		実績値	-	-	-	53.3	52.8	57.5	52.5	54.3			
		目標値	54.4	57.2	60.6	60.6	60.6	57.4	58.7	59.8	60.6		
		実績値	53.0	54.2	55.1	55.7	57.4	55.0	57.4	57.7(暫定値)			
		目標値	-	-	-	-	-	38.3	38.3	38.3	38.3	38.3	
		実績値	36.1	37.0	37.9	38.3	38.9	38.6	40.2	40.1			
		目標値	-	-	-	-	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	
		実績値	-	-	-	8.8	12.3	13.6	12.3	10.1			
目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)													
① 市民アンケートの新規設問であり、過去の実績値がないため成り行きはほぼ横ばい(55%程度)と想定し、目標値は、令和6年度には成り行き値より5ポイント高い60.0%に設定した。													
② 第3次特定健診等実施計画と同様、60.0%以上が目標であるためR5年度の目標値を維持した60.6%とした。													
③ 過去の実績では割合が上昇傾向であり、成り行きでは上昇を続けるものと考えられるが、目標値は生活習慣病患者割合が増加しないことを目指し、現況値(平成30年度・38.3%)を維持することとした。													
④ 健康わくわくウォーク参加申し込み者が人口の1%いることで、口コミで毎年1%ずつ広がるかと推定した。													

3 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> ・健診を受診し、自身の健康づくりに積極的に取り組む。 ・健診の結果、課題があれば早期に受診し、状況が悪化しないよう生活習慣を改める。また、必要に応じて治療を受け状況を改善するよう努める。 ・関係団体及び関係機関は、市が主催する健康づくり事業に参加するよう声かけしたり、健康づくり事業を行政と共に企画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受診率向上につながる受診勧奨方法の検討及び体制整備を行う。 ・関わるスタッフが効果的な指導が出来るよう、スキルアップのため積極的に研修を受講する。 ・疾病ごとに、個別及び集団で疾病ごとのハイリスクアプローチを行い重症化予防を図る。 ・市民全体の健康意識向上には、ポピュレーションアプローチにより広く市民に健康情報の周知啓発を図る。

4 施策の状況変化・住民意見等 ※目標設定の前提とした後期基本計画策定時点の状況変化・住民意見等を記載しています。

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～R6年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
<ul style="list-style-type: none"> ・健康増進計画によるアンケート結果により全年齢で、運動には積極的に取り組んでいないという回答が多い。そのため今後はますます、生活習慣病の増加が見込まれることや状態が悪化することが考えられる。 ・40～50歳代の健診受診率が最も低く、この年代で重大な疾患に罹患すると困窮に繋がることが考えられる。 ・成長戦略実行計画においては、生活習慣病に占める医療費の割合が多いことから、今後は重症化予防に軸をおいた取り組みが強化される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康増進計画によるアンケート結果では、食育に関する学習会に参加したいなど食に関する教室のニーズが高い。また、健康のために気を付けていることの中では、80%くらいが食事に気を付けている。食事の意識が高い反面、ウォーキングを含めた運動習慣のある人の割合が30%程度で、どの年代でも低くなっている。 ・健診については、血液検査項目を増やして欲しいなどの健診内容の充実を希望している。特に高齢になって人間ドック志向が高い。

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数	24	23	22	23	
関連事業予算額(単位:千円)	545,803	540,700	633,838	650,565	
(予算額の内訳)	国庫支出金	679	614	3,881	3,920
	県支出金	7,405	7,251	3,756	4,141
	地方債	0	0	0	0
	その他	13,026	13,385	15,767	16,608
	一般財源	524,693	519,450	610,434	625,896

(1)目標達成度(目標値との比較)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標どおりの実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば目標より低い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標より低い実績値だった		・指標①は、目標値と比べ3.7ポイント下回った。 ・指標②は、目標値と比べ2.1ポイント下回った。 ・指標③は、目標値と比べ1.8ポイント上回った。 ・指標④は、目標値と比べ2.9ポイント下回った。 4指標全て目標値に僅差で届かない結果となった。 コロナ禍において、特に夏の第7波、冬の第8波の影響があったと考えられる。
(2)時系列比較(どのように変化してきたか)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した		・指標①は、R3年度比で1.8ポイント上回った。 ・指標②は、R3年度比で0.3ポイント上回った。 ・指標③は、R3年度比で0.1ポイント下回った。 ・指標④は、R3年度比で2.2ポイント下回った。 長期化するコロナ禍での時系列比較はあるが、H30、R元年度の平時との比較では、ほぼ横ばい状態であり、市民の健康意識は高く維持されていると考えられる。
(3)他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば高い成果水準である <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である		・指標①は、厚生労働省の実施した調査では同程度の状況であった。 (内閣府「健康づくりに関する世論調査」参照) ・指標②は、県内の市では甲州市に次いで2番目に高いレベルだった。 市民アンケート設問27「健診などの健康づくり対策に満足」している市民について、特に60歳代、70歳代、80歳以上ではそれぞれ60%を超える高い結果が出ており、高い受診率につながっていると考えられる。 ・指標③は、県及び中北保健所管内市町では40%前後と同様な割合である。 ・指標④は、本市の独自事業であるため比較できない。

7 基本計画期間における施策方針

(1)施策の基本方針
・健康に関する正しい知識を広く周知し、健康意識を高めて健康的な生活につながるよう支援する。 ・健康診査を受けることで、自身の健康課題に気づき、適切な健康行動がとれるように支援する。

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R5年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R6年度)の方針

基本事業	今年度(R5)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R6)の方針
1 健康意識の向上	【取り組み】 1 健康かがやきプラン(第3次健康増進計画及び第2次食育推進計画・R2-R11)の中間見直しに向け準備する。 2 健康わくわくウォーク事業を見直し、改善策を次年度に投入する。 3 前年度より開始した後期高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に向けた取り組みについて、後期・介護・健康増進課の連携を強化する。 ・健診受診後の生活習慣病予備群、及び重症化予備群に対する集団又は個別指導を強化する。 【課題】 1 指標④「健康リーグ」の認知度について、70歳代は7.8%、80歳以上は5.7%と目標値を大きく下回った(最も高いのは18、19歳14.3%)。	・取り組み1の計画について、中間見直しを行う。 ・課題1について、高齢者には「幸せ実感！南アルプス健康リーグ」の実態が分かりづらい状況であるため、わかりやすく伝える。
2 健康診査受診の奨励	【取り組み】 1 健診受診率向上に向けて市内医療機関及び薬剤師会と連携を図る。 2 前年度より開始した、後期高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に向けた取り組みについて、後期・介護・健康増進課の連携を強化する。 ・40～50代への健診受診勧奨を行う。前年度、過去3年間に一度でも受診した者に対するの勧奨に変更したところ一定の成果がみられた。 【課題】 1 今年度から開始した、後期高齢者を対象とした脳ドックの実施状況を分析し、必要に応じ見直す。	・市民アンケート設問27「健診などの健康づくり対策に満足」している市民は、R2から54.2%、56.5%、57.4%と堅調に増加している。 よって未受診者への受診勧奨や健診受診率向上に力点を置き、全国の自治体で効果があった事例などを参考に、健診業務の細部まで見直し業務に反映させる。
3		
4		
5		